

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(カイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第30回 今の教育と昔の教育の違いから学ぶこと

ある日ネットを覗いていたら、日経B.P.の記事が目にとまった。「課長塾」という言葉だった。現役時代、人事部に所属して、採用や社員研修を行ってきたものとして部下の育成には相当力を入

現代はトーナメント方式

れていた。無意識に反応してしまう自分がいることに驚きながら申込書を出してしまった。

場所は広島市内のホテル。がんサロン仲間と2人で出かけて行った。参加者は150名以上。私が最高齢だろうか。皆さん若い。30代が大半だろうか。

新しくリーダーとなって部下指導に難儀している姿が見て取れた。こんなに部下の育成に困惑している若者が多いとは思いもしなかったことだった。最近自分たちのスキルアップ研修の多さが目につくが、部下を育てることの大切さこそ、これからの社会を作って行くベースになるのではないだろうか。

2部構成で1部は部下の指導法についての講義、2部はJALのCAによるセルフ・マネジメントについてのトークだった。自分の若かりし時代を振り返ると、最近の社員教育は非常に難しい。当時はしごいて、しごいて、育てることが普通だったが最近違う。怒ると辞める。ひ弱な人材しかないからだ。学校教育に問題があるからだろう。

今の学校教育は仲良しクラブ。お互いをかばい合いながら進んでいる。今の社会は特に生存競争が激しい。蹴落とすか、蹴落とされるかの真剣勝負の場が多い。偉くなりたいが上に立てる者は全体の一部。それまでには沢山の競争を生き抜かねばならない。

沢山の収入を望むなら、上に立つしかない。試練の連続がその地位を勝ち取るのだろう。今はそんな厳しさに耐えられない若者があまりに多い。都会は価値観の違う人達の集まる場所。だから相手の考えを認めることからスタートする。さらに自己主張が出来なければ生きていけない。現代はトーナメント方式がまかり通っている。それを勝ち抜かなければ勝利は見えてこない。そんな社会をどう生き抜けるだろうか。